国立台湾大学所蔵中世小説関係書籍書誌調査報告

国語教育専修　　勝俣　隆

はじめに

平成17年9月4日から10日まで、日本学術振興会科学研究費補助金により海外に所蔵される中世小説(お伽草子・室町物語)関係の伝本を調査するため、台湾を訪れ、国立台湾大学図書館において現物を閲覧し、調査をした。本稿は、その調査報告である。国立台湾大学は、かつての台北帝国大学の後進であり、帝大時代に収集した非常に多くの日本関係の書籍を所蔵している。古典籍においても、日本書紀の写本や江戸時代の仮名草子・浮世草子・読本等の版本等を多数所蔵している。これらについては、既に何度か日本の研究者による調査が行われ、台湾大学でも整理を行ってきた(注1)。しかしながら、台湾大学図書館の洪淑芬氏に拠れば、たとえば鳥居氏等の調査は目録によるものが主で、現物とは必ずしも一致していないそうである。また、台湾大学文学院の朱秋而副教授に拠れば、台北帝国大学は、日本の敗戦と共に、中華民国政府に接収されたが、その時、植民地支配をおこなってきた敵国日本の文学や歴史は、研究・教育が禁止され、長い間、書籍等が放置される運命を経たそうである。日本の古典籍で、その間に行方不明となったものが少なからずあり、虫食いの多くもその時期に発生したようである。主な先行の調査としては、金子和正氏「臺湾大學圖書館所藏國書目録抄」、鳥居フミ子氏「臺湾大學圖書館所藏図書調査目録」、宮尾与男氏「台湾大学図書館所蔵の国書について」、須田悦生氏「台湾大学研究図書館蔵日本古典籍目録」、松原孝俊氏「台湾大学総図書館所蔵日本典籍目録」等がある。以下、これらの先行調査は、金子・鳥居・宮尾・須田・松原と略記する。

丸付き数字の意味は、次の通りである。①写本・版本の区別。②所蔵者整理書名。③所蔵者整理番号。④外題。⑤内題。⑥刊写年次。⑦保存状態。⑧保存形態。⑨表紙の生地・色・模様。⑩見返し。⑪料紙。⑫装丁。⑬数量。⑭表紙寸法。⑮字高または匡郭。⑯表紙以外の紙数(遊紙の丁数)。⑰本文の行数。⑱絵の状態、数量。⑲その他(奥書・刊記・蔵書印・入手の経緯。気づき等)。略とあるのは不明または該当項目がないものである。なお、国文学研究資料館では、挿絵の数え方を、絵の内容に係わらず、半丁分を一面としているが、本稿では、一枚の絵が見開き両面に渡る場合、二面ではなく、絵の内容により一図と計算したので、ご了解いただきたい。

1，秋月物語　①刊本。②秋月物語。③08553～08555。④題箋剥離にて不明。

左肩に題箋の痕跡あり（約 14．5　×３．５糎）。⑤秋月物語　上(中・下)。⑥刊年不明。江戸前期⑦不良（破損して、表紙が取れている。虫食いもあり）。⑧紺布製帙入り。⑨卍字繋ぎ牡丹模様。⑩本文共紙。⑪楮　⑫袋綴じ。⑬上中下三冊。⑭25．７糎×18．５糎。⑮20．５糎×16．０糎。⑯全 96 丁（上 33 丁、中 31 丁、下 32 丁。）⑰12 行。⑱全 16 図（上冊　第一図（三ウ）・第二図（十一オ）・第三図（十四ウ）・第四図（十八オ）・第五図（二四ウ）・第六図（二八ウ）、中冊　第七図（六ウ）・第八図（十三オ）・第九図（十七オ）・第十図（二十四オ）・第十一図（三一オ）、下冊　第十二図（四オ）・第十三図（十一ウ）・第十四図（十七ウ）・第十五図（二八オ）・第十六図（三一ウ）⑲蔵書印（臺北帝國大學圖書印・藤本伊八）・板心「秋月上（中・下）　丁数」。本書は、鳥居・須田・金子・松原にあり。鳥居で本書の大きさを「15．8×18．８糎　」とするのは、１糎の間違いがあろう。受入番号は「457210　18．3．25」とあって、戦争末期の昭和十八年三月二十五日に登録されている。

２，秋月物語　本書は、松原の 333 ページに依れば、「刊　上のみ存　26．５×１８．３糎　絵入　霞亭文庫　**17767**」とあって、元渡辺霞亭の所蔵であったことが知られるが、今回の調査では、破損ひどく閲覧不可ということで、披見することは出来なかった。

３，いはやものかたり　①刊本。②いはやものかたり。③14330～14331。④いはやものかたり。題箋は中央に 16．７×３．１糎の白地に青の波模様で、「いわやものかたり　上（下)」と元題箋があり、左肩にも、19．１×３．５糎の後題箋で、「いわやものかたり　二冊」とある。⑤いはやのさうし　上（下)。⑥刊年不明。江戸前期。⑦虫食いや表紙の傷みがある。⑧帙入り。⑨紺地に菊と水波模様。⑩本文共紙。⑪楮。⑫袋綴じ。⑬上下二冊。⑭26．２×17．８糎。⑮20．５×15．３糎。⑯全 45 丁（上冊 25 丁・下冊 20 丁)。⑰10 行。⑱全８図（上冊第一図（二オ)・第二図（八オ)・第三図(十四ウ)・第四図（二十一ウ)・第五図(二十五ウ)、下冊　第六図（五ウ)・第七図（十二オ)・第八図（十七ウ)。⑲刊記なし。蔵書印「臺北帝國大學圖書印・下総崎房　秋葉孫兵衛蔵書」・板心「上（下）丁数」。受入番号「457193　18.3.25」とあり、１の『秋月物語』と同時に入手したことが分かる。本書は、宮尾に、「内題「いはやのさうし」２冊。26．３×１７．８糎」とある。松原 266 ページに「いれやものかたろ」とあるのは、この書の題箋「いわやものかたり」を誤読したもので、誤りである。

４，西行物語　①写本。②西行物語。③03387～03388。④西行物語上(下)。(後補)。⑤なし。⑥江戸中期。⑦良好。⑧帙入り。⑨薄茶。縦の刷毛目模様。⑩本文より新しい半紙で、文政十二年（1829）の修補時に添付されたものであろう。⑪楮。⑫袋綴じ。⑬二冊(上・下)。⑭22．０×16．９糎。⑮約 20×14．５糎。⑯全 74 丁（上冊 39 丁。うち、前に遊紙１丁、下冊 35 丁)。⑰8 行。１行 19 から 21

字ほど。⑱なし。⑲本文末尾に次の跋文がある。「應永三　丙戌歳　菊月廿日跋」裏見返しに次の奥書がある。「此書者　桂岳院様御手自寫賜之　文政十二年乙丑八月修補表装通讀以加朱書　勝世」これに依れば、本書は、越後与板藩第四代藩主井伊直存（いいなおあり）（法号桂岳院徹心道馨。1719年から1760年まで生存と推測される）が、自ら書写して下賜したものに対して、勝世という人物（詳細不詳）が、文政十二年（1829）の八月に表装を補修して、通読の後に、朱を加えたものと推測される。実際、本書には、平仮名の訂正・振り漢字等、朱で訂正が施されている。蔵書印は、「臺北帝國大學圖書印」「桃木書院蔵」「高田栄？」。「45056昭和4・3・31」の受入番号があり、昭和四年三月三十一日に台北帝大の所蔵になったことが分かる。鳥居フミ子「国立台湾大学所蔵「桃木文庫」目録65ページ」に「桂岳院　文政十二年　写2冊　22×17糎」とあるのは、文政十二年は補修された年で、書写された年ではないので、訂正されるべきであろう。

5，さるけんし①刊本。②さるけんし。③06992～06993。④題箋「繪入　さるけんし　上（下）」（14．1×3．5糎。左肩・重郭・原・刷）。⑤さるげんし。⑥寛文頃（室町時代物語類現存本簡明目録に拠る。）。⑦普通。表紙虫食い。⑧略。⑨青地に横刷毛目模様。⑩本文共紙。⑪楮。⑫袋綴じ。⑬上下二冊。⑭27．4×19．0糎。⑮22．2×16．2糎。⑯全19丁（上冊10丁、下冊9丁）。⑰14行。⑱全六図　上冊三図。第一図（二ウ・三オ）・第二図（六オ）・第三図（九オ）。下冊三図。第四図（二ウ・三オ）・第五図（六オ）・第六図（八オ）。絵は丹緑本のように、一部薄い赤や茶で着色されている。）⑲松會開板。板心「さる　上（下）丁符」蔵書印「臺北帝國大學圖書印・下総崎房　秋葉孫兵衛蔵書」とあって、3の「いはやものがたり」と同じ人物の旧蔵書であったことが知られる。受入番号277226昭和10．3．13とあり、東京神田の巖松堂書店より購入している。半年前の昭和9年7月11日に、同じ巖松堂書店から「さくらゐ物語」の複製を購入しているので、その縁での購入であろう。

6，しのひね物語　①写本。②しのひね物語。③06994。④表紙題箋「しのひね物語　全」（左肩6．7×3．3糎、刷）。⑤忍寝物語　全。⑥昭和8年。⑦ほぼ良好。一部虫食い有り。⑧略。⑨略。⑩略。⑪略。⑫袋綴じ。⑬1冊。⑭27．7×19．5糎。⑮略。⑯87丁。⑰10行。1行21字ほど。⑱なし。⑲識語「右一冊東京文理科大学助教授山岸徳平氏本ニヨリ謄寫ス　昭和八年十一月　台北帝国大学文政学部　国文学研究室」。蔵書印「臺北帝國大學圖書印」「山岸文庫」「市村蔵書」。紙片「山岸本　しのひね物語（写）」受入番号が「262685　昭和9・7・23」とあり、謄写後間もない昭和9年7月の受入と分かる。須田22ページ・松原167ページに指摘あり。

7，玉つくり物語　①転写本。②玉つくり物語　③07007～07009。④題箋はあるが文字なし。⑤玉つくり物語。⑥昭和6年。⑦虫食い不良。⑧略。⑨三冊と

も網目無地。上冊茶色、中冊薄緑、下冊黄土色。⑩略。⑪略。⑫袋綴じ。⑬上中下三冊。⑭27．1×19．7糎。⑮18．0×14．5糎。⑯全307丁（上冊124丁、中冊95丁、下冊88丁）。⑰8行。1行14字ほど。⑱なし。⑲識語「玉造物語十五巻（冊）　近衛公陽明文庫本也　今京大寄託本　中臣清水氏写本転写者也　誂多々良氏写了　昭和六年南呂下浣合十五冊為三冊矣　岸廼舎識　彰考館本」とあり、昭和6年8月下旬に十五冊を合冊して三冊本として纏められたことが分かる。蔵書印「臺北帝國大學圖書」。須田24ページ、松原167ページに指摘あり。本書は、『お伽草子事典』において、「お伽草子」の仲間入りをした作品であり、「室町時代現存本簡明目録」にも掲載されていない。事典中で解説を書かれた石川透氏も、「お伽草子として扱うべきか、今後も検討の要がある。」とされている（注2）。

8，たむら　本書は、台湾大学が所蔵する中世小説の中でも最も優品であり、貴重書として、他の書籍とは別に特別室に収納されて管理されている。今回、その貴重書の収納された部屋の中で、ガラス越しに展示してある部分を閲覧することは出来たが、直に手に取ってみることは許可されなかったので、書誌的事項を確認することは残念ながら出来なかった。そこで、一見して分かった事柄と先行論で振れられている基本的な事項のみ記す。①写本。②たむら。③04860～04862。④外題未確認。⑤内題未確認。⑥近世初期。⑦良好。⑧漆箱入り。⑨表紙未確認。⑩見返し未確認。⑪鳥の子。⑫巻子本。奈良絵巻。⑬3巻。⑭32．6×1693糎〔上〕32．6×1696糎〔中〕34．2×1608糎〔下〕。⑮未確認。⑯略。⑰未確認。⑱絵は大和絵風で美麗である。数量未確認。⑲その他、奥書・蔵書印・入手の経緯等未確認。なお、本書は、台湾大学国書資料集1に、宮尾与男氏による翻刻・校合と影印がある（1976年、自椶文庫、2冊）。他に須田・松原に言及あり。

9，中将姫の本地　①刊本。②中将姫の本地。③08548。④外題剥離不明。左肩に題箋の痕跡あり。⑤中將姫本地（ちうじやうひめのほんぢ）。⑥正保頃刊（図書カードに拠る。）。⑦普通。虫食い有り。⑧帙入り。帙左肩に題箋有り。⑨鉄紺（黒に近い）無地。⑩本文共紙。⑪楮。⑫袋綴じ。⑬全1冊。⑭27．8×17．1糎。⑮19．0×13，5糎。⑯23丁。⑰10行。1行約24字。⑱全7図。（第一図（二オ）・第二図（五オ）・第三図（九オ）・第四図（十一ウ）・第五図（十五オ）・第六図（十九オ）・第七図（二二オ）。⑲刊記なし。柱「中　丁数」、蔵書印「臺北帝國大學圖書」。図書カードに次のようにある。「「室町時代物語」慶安4刊ノ後刷カ。寛文5年松会刊モアリ。サスレハ東大、国会、赤木文庫ニ存スルノト同ジカ」。受入番号455882　12．5．28とあり、昭和12年5月に所蔵されるに至ったものである。鳥居78ページ、金子95ページ、松原183ページに言及あり。

10，中将姫本地　内題　無刊記　**08547は、**松原183ページに掲載されているが、手違いで、存在を確認できなかった。

11，福富草紙詞書　①写本。②福富草紙詞書。③05813。④題箋「福富草紙

詞書（左肩・重郭・後刷、16．４×３．８糎）。⑤福富艸紙。⑥江戸。⑦普通。虫食い有り⑧略。⑨紺地に雲鶴の型押し（後装）。⑩本文共紙。⑪楮。⑫袋綴じ。⑬全１冊。⑭23．９×16．７糎。⑮20×14糎。⑯全７丁。⑰13行。１行31字。⑱なし。⑲奥書なし。蔵書印「臺北帝國大學圖書印」・受入番号 210916　昭和７・2･25とあって、昭和７年の受入である。鳥居フミ子「台湾大学所蔵「長沢文庫」目録」80頁、松原153ページに指摘がある。なお、本書の本文は、福富草紙の古絵巻春浦院蔵「福富艸紙」とほぼ同文であるが、細部では若干の相違を有する。その一部を下記に記す。

上の太字が本書、下の細字が春浦院蔵本である。下線は異なるところ。

１，**（媼詞）帋もをしくもなし**

（媼）帋もおしくも□□

２，**（翁詞）いかてもいたり**

（秀武）いかてもたいたり

３，**（翁詞）いかてさゑの御神も**

（秀武）いか□さゑの御神も

４，**（翁詞）この秀武と申す**

（秀武）この秀武申す

５**（翁詞）しるしあらせ給へ**

（秀武）しるしあらしめたまへ

６，**（卜者)老の幸やひらけ給なん**

（陰陽師）老の幸やひらけ給はん

７，**（中将殿）下﨟こそをかしき者はあれ。おほつかな。えもいはぬさえするやつかな。その紅の衣かつけよ。あれや風に吹あけらるゝ。(女房)つねに参れと仰せ候。(童）よくひれ。(翁)あやつんゝゝおかねさらゝゝ。おいるほとに、おいれはおれぬ。こしほねはおれぬ。つんゝゝこところすな。**

（下﨟一）下﨟こそ、からき物はあれ、おほつかな。（下﨟二）あれや、風に□□あけらるゝ。（公卿）えもいはぬ、さえするやつかな。その紅のきぬ、かつけよ。（御簾の中の女房）つねにまいれと仰よ。（小童）よくひれ。（近侍）□□□一とに、ころすな。（秀武）あやつゝ　にしきつゝ。（秀武）くるふほとに、おいほね□□おれぬ。こしほねはおれぬ。つゝ。

冒頭部分の以上の例で窺えるように、本書は、春浦院蔵本が空白になっているところ〔□で示した部分〕も本文を有しており、春浦院蔵本の欠如した部分を推測することが可能で、その意味で、校合上有益である。また、７のように、詞を発した発話者が大きく異なる部分がある。たとえば、春浦院蔵本で、「（下﨟一）下﨟こそ、からき物はあれ、おほつかな。」とある部分は、下﨟が下﨟のことを哀れむというよりは、公家が下﨟の行為に感心していると見た方が自然であるから、

本書の本文の方が祖本に近い可能性もあろう。

１２，ふんしやう物語　①写本。②ふんしやう物語。③12702～12703。④表紙の題箋〔中央・白地に銀で砂子と草花模様・16．４×２．７糎・墨書・原装〕に「ふんしやう物語　上（下）」。⑤ふんしやう物語。⑥江戸前期。⑦虫食い多し。破本。ほぼ全丁ばらばら。⑧奈良絵本。⑨浅葱色の地に金で芙蓉を描き、細い霞を引く。裏表紙は、浅葱色の地に金で小菊を描き細霞を引く模様。⑩青地に金砂子〔裏見返しも同じ〕。⑪鳥の子。⑫袋綴じ。⑬二冊。⑭27．２×19．５糎。⑮22．５×16．５糎。⑯全31丁（上冊14丁、下冊17丁。）。⑰16行　1行26字ほど。⑱奈良絵全八図（上冊四図。第一図（二ウ・三オ）・第二図（五オ）・第三図（八ウ・九オ）・第四図（十二ウ・十三オ）。下冊四図。第五図（二ウ・三オ）・第六図（六オ）・第七図（九ウ・十オ）・第八図（十四ウ・十五オ）。⑲奥書なし。蔵書印「臺北帝國大學圖書印」「霞亭文庫」（長方形朱印）。「霞亭文庫」は大阪朝日新聞等の記者で、『大石内蔵助』『渡辺崋山』等の時代小説や演劇の脚本家でもあり、さらには、近世文学の収集家として著名であった渡辺霞亭(1864－1926)の文庫名である。大正15年(1926年)に東京帝國大学が購入して、現在は一大コレクションとして電子版も公開されている。そのうち御伽草子・舞の本関係は、全千百九十六点のうちの九十六点である。現在、文正草紙は、「霞亭文庫」に五点納められているが、本書は、何らかの理由、たとえば、当時から本の状態が良くなかった等の理由で漏れたものであろう。受入番号は、56685 昭4･8･16となっており、東京帝大が一括購入したよりも少し遅れて、当時の台北帝大が入手したと推測される。鳥居95ページに指摘あり。

１３，文正草子　①刊本。②文正草子。③13479～13480。④表紙題箋「新板　ふん正さうし　上(下)」(左肩・16．５×３．０糎・刷)。⑤ぶんしやうのさうし　上(下)。⑥元禄頃か(室町時代物語類現存本簡明目録に拠る)。⑦普通。虫食いあり。⑧略。⑨上冊の表表紙は紺地に銀で竹、裏表紙は同じく芒の絵。下冊表表紙は紺地に銀で松、裏表紙は同じく芒の絵。⑩本文共紙。⑪楮。⑫袋綴じ。⑬上下2冊。⑭27．４×19．２糎。⑮22．４×16．０糎。⑯全28丁半（上冊14丁半）・下冊(14丁)。⑰16行。1行は31字程度。⑱全8図（上冊。第一図（二ウ・三オ）・第二図（六オ）・第三図（八オ・九ウ）・第四図（十三オ）。下冊。第五図（三ウ・四オ）・第六図（八ウ・九オ）・第七図（十五ウ・十六オ）。⑲刊記に「水田甚左衛門板」とある。同板と思われるものが、京大附属図書館・慶応義塾・國學院・天理等にある。蔵書印「臺北帝國大學圖書印」。受入番号は、210097　昭和7･2･25で、長澤文庫蔵。宮尾・松原257ページで指摘あり。

１４，ふしの人穴　①謄写版。②ふしの人穴。③13351。④題箋「ふしの人穴」（左肩・15．５×３.７糎・刷り)。⑤ふしの人穴。⑥大正8年。⑦普通。虫食い少々。⑧略。⑨柿色無地。⑩本文共紙。⑪略。⑫袋綴じ。⑬1冊。⑭23．５×16．

7糎。⑮略。⑯全46丁。⑰9行。1行18字程度。⑱なし。⑲刊記「大正八年十二月廿五日印刷　大正八年十二月三十日発行　編輯印刷兼発行者　石川巖　発行所　珍書保存会」。なお、本書は、本書同封の紙片に次の如く紹介されている。「本會刊行の本書は慶長の古寫本にして種彦の奥附に見ゆる如く異本富士人穴として世に傳へられたるものにして試に刊本と對比するに出入夥しく到底校合の煩に堪へず。何れが果して原本なるや否やを判知し難し。たゞ恨むらくは往々筆寫の誤等ありて判讀に苦しむの一事なり。終りに臨んで本會のために本書の覆刻を快諾せられたる大槻博士の行為を感謝す」紙片では本書の本文の特異性が強調されており、大槻文彦博士の旧蔵本であったことも分かる。松原255ページに指摘あり。蔵書印「臺北帝國大學圖書印」。受入番号は、246055　昭和8・7・15である。

以上が中世小説の写本・版本であるが、複製としては、次のものがある。

1、**伊吹山繪詞**　①活字本。②伊吹山繪詞。③12771。④略。⑤略。⑥昭和3年9月。⑦普通。⑧略。⑨略。⑩略。⑪略。⑫袋綴じ。⑬1冊。⑭18．6×13．1糎。⑮略。⑯42丁。⑰13行。⑱なし。⑲刊記「昭和三年九月十一日印刷、昭和三年九月十五日発行、定価四拾銭、龍谷大學國文學会出版叢書第四編。有川武彦著。蔵書印「臺北帝國大學圖書印」。原本、小川本。松原245ページ

2、**車僧草子**　①複製。②影印車僧草子。③14332～14333。④略。⑤略。⑥昭和16年11月。⑦普通。虫食い有り。⑧木箱（26．0×19．0×5．0糎）入り。⑨略。⑩銀網目。⑪略。⑫略。⑬1冊。⑭23．5×16．5糎。⑮略。⑯墨付全18丁（他に前後に遊紙各1丁）。⑰10行。⑱全7図（第一図（二オ）・第二図（五オ）・第三図（七ウ・八オ）・第四図（十一オ）・第五図（十四オ）・第六図（十五ウ・十六オ）・第七図（十八オ）。⑲刊記「京都帝国大學　印刷人　森田繁　昭和十六年十一月十日発行」「限定300部のうち294号」・蔵書印「臺北帝國大學圖書印」。・受入番号は449792（17．12．7）で、昭和17年12月の入手。車僧草子の解説も付いており、整理番号14333は解説の分。松原266ページ。

3、**西行物語**①複製。②西行物語。③14554。④略。⑤略。⑥昭和2年2月。⑦普通。虫食い有り。⑧木箱（8．0×34×7．7糎）入り。⑨サンドピンク地に唐花模様。⑩金砂子。⑪略。⑫巻子本。⑬1巻。⑭表紙寸法（28．0×30．0糎。）⑮略。⑯略。⑰略。⑱略。⑲刊記「吉田幸三郎　大和繪同好會　昭和2年2月28日」蔵書印「臺北帝國大學圖書印」・徳川侯爵家蔵本の影印。松原269ページ。

4、**さくらゐ物語**　①複製。②さくらゐ物語。③261985～261995。④題箋（中央・黄土色麻の葉模様・刷・16．7×3．2糎）。⑤略。⑥昭和9年。⑦不良。虫食いあり。一部破損。⑧全11冊が紐で綴じられている。⑨茄子紺地

にさや型模様。⑩略。⑪略。⑫袋綴じ。⑬全 11 冊。⑭25．5×17．5 糎。⑮略。⑯全四一三丁　第一冊（四九丁）第二冊（二七丁）第三冊（三八丁）第四冊（三一丁）第五冊（三八丁）第六冊（四四丁）第七冊（四〇丁）第八冊（四三丁）第九冊（四三丁）第十冊上（三六丁）第十冊下（二二丁）。⑰10 行。1 行は 11 字から 17 字程度⑱全九十四図。第一冊（第｛以下は煩雑なので、「第」を略す｝一図（二オウ）・二図（六オウ）・三図（九オウ）・四図（十三オウ）・五図（十六オウ）・六図（十八オウ）・七図（二十オウ）・八図（二一オウ）・九図（二二オウ）十図（二六オウ）・十一図（三十オウ）・十二図（三四オウ）・十三図（三九オウ）・十四図（四八オウ）。第二冊　十五図（二オウ）・十六図（六オウ）・十七図（八オウ）・十八図（十二オウ）・十九図（十八オウ）・二十図（二三オウ）　第三冊　二一図（四オウ）・二二図（六オウ）・二三図（八オウ）・二四図（十三オウ）・二五図（十九オウ）・二六図（二二オウ）・二七図（二六オウ）・二八図（二九オウ）・二九図（三三オウ）・三十図（三六オウ）　第四冊　三一図（三オウ）・三二図（十オウ）・三三図（十三オウ）・三四図（十九オウ）・三五図（二三オウ）・三六図（二八オウ）　第五冊　三七図（二オウ）・三八図（八オウ）・三九図（十三オウ）・四十図（十六オウ）・四一図（二一オウ）・四二図（二五オウ）・四三図（二八オウ）・四四図（三二オウ）・四五図（三八オウ）　第六冊　四六図（四オウ）・四七図（七オウ）・四八図（十二オウ）・四九図（二一オウ）・五十図（二三オウ）・五一図（二六オウ）・五二図（三十オウ）・五三図（三三オウ）　第七冊　五四図（二オウ）・五五図（六オウ）・五六図（十オウ）・五七図（十三オウ）・五八図（十六オウ）・五九図（十八オウ）・六十図（二四オウ）・六一図（二七オウ）・六二図（三一オウ）　第八冊　六三図（二オウ）・六四図（七オウ）・六五図（十五オウ）・六六図（十八オウ）・六七図（二二オウ）・六八図（二六オウ）・六九図（三一オウ）・七十図（三七オウ）第九冊　七一図（五オウ）・七二図（十一オウ）・七三図（十三オウ）・七四図（十六オウ）・七五図（二四オウ）・七六図（三一オウ）・七七図（三四オウ）・七八図（三八オウ）・七九図（四二オウ）　第十冊上　八十図（二オウ）・八一図（三オウ）・八二図（九オウ）・八三図（十三オウ）・八四図（十七オウ）・八五図（二一オウ）・八六図（二六オウ）・八七図（二八オウ）・八八図（三一オウ）・八九図（三四オウ）　第十冊下　九十図（五オウ）・九一図（九オウ）・九二図（十五オウ）・九三図（十八オウ）・九四図（二一オウ）⑲昭和 9 年巖松堂による複製。蔵書印「臺北帝國大學圖書印」・受入番号 261985　昭和 9．7．11。松原 255 ページ。本書は複製だが、現在、原本が行方不明なので複製しか現存していない。その意味で貴重である。

5、 **長谷雄草子**　①複製。②長谷雄草子。③14556。④題箋（白七宝繋ぎ。1

6．8×2．7糎)。⑤略。⑥昭和七年。⑦良好。⑧略。⑨浅葱色で唐花菱形繋ぎ。⑩白地銀波。⑪略。⑫巻子本。⑬一巻。⑭表紙寸法 28．7×32．5糎。⑮略。⑯略。⑰略。⑱略。⑲刊記「七條憲三　大和繪同好會　昭和七年六月二十九日」・蔵書印「臺北帝國大學圖書印」・細川侯爵家蔵本の複製。松原 269 ページ。

その他、舞の本・古浄瑠璃・寺社縁起・その他等で、中世小説と近い内容のものとしては、次のようなものがある。合計 100 点近く調べたが、紙幅の都合もあり、名称のみ記す。機会があれば、別に紹介したい。

築島、つきしま、文学(もんがく)、熊野之御本地、北野神社由来記、善光寺、善光寺縁起、阿弥陀仏四十八願記、壬生地蔵尊縁起、和州生駒山宝山寺縁起、薬師通夜物語、周防内侍等。

注１，先行の調査としては、次のものがある（敬称略)。金子和正「臺湾大學圖書館所藏國書目録抄」(天理図書館『ビブリア』42 号（昭和 44 年 6 月)・45 号（昭和 45 年 6 月)、鳥居フミ子「國立臺湾大學圖書館所藏図書調査目録」(『実践女子大学文学部紀要』15 号（昭和 48 年 9 月)・16 号（昭和 49 年 2 月)、宮尾与男「台湾大学図書館所蔵の国書について〔上〕『日本古書通信』359 号、昭和 49 年 3 月」「同〔下〕」『日本古書通信』361 号、昭和 49 年 5 月)、鳥居フミ子「台湾大学所蔵『長沢文庫』目録」(東京女子大学『日本文学』56 号、昭和 56 年 9 月)、同「國立臺湾大學所蔵『桃木文庫』目録」(東京女子大学『日本文学』58 号、昭和 57 年 9 月)、須田悦生「台湾大学研究図書館蔵日本古典籍目録」(静岡女子短期大学・国語国文学資料集Ⅲ　昭和 59 年 12 月)、鳥居フミ子「國立臺湾大學所蔵『上田文庫』目録」(東京女子大学『日本文学』65 号、昭和 61 年 3 月)、松原孝俊「台湾大学総図書館所蔵日本典籍目録」(2001 年)、入口敦志「台湾大学図書館蔵和古書調査の概要」(2001 年度財団法人交流協会日台交流センター歴史研究者交流事業報告書、2002 年 3 月）等。なお、図書の整理番号は、何度か変遷を経て複数の番号が存在するが、本稿では、現在、台湾大学が使用している整理番号に拠った。

注２，徳田和夫編『お伽草子事典』(東京堂出版、2002 年 9 月）所収。

付記　(今回の調査に当たって大変お世話になった國立臺湾大學文學院日本語文學系の陳明姿教授・朱秋而副教授、國立臺湾大學圖書館特藏組組長の邱婉容氏、特藏組編審洪淑芬氏、その他の係員の方々に衷心より謝意を呈します。また、台湾大学に関する情報を提供くださった同僚の中島貴奈先生に心より御礼申し上げます。さらに同行して調査助手をしてくれた妻眞紀に感謝します。)